資料2028-WG-4-3

下隣接周波数帯を使用する
無線システムとの共用検討

資料提出元: 加藤構成員

下隣接周波数帯を使用する無線システムとの共用検討

① 検討対象周波数帯：160～170MHz

対象周波数帯の下限として、「帯域外領域」の下限である中心周波数－2．5×チャネル帯域幅とする。現在、公共ブロードバンドシステムにおいては、チャネル帯域幅5MHzが想定されており、最も低い周波数帯として使用する可能性がある170～175MHzのチャネルの中心周波数が172．5 MHzであることから、「帯域外領域」の下限周波数は、172．5MHz－2．5×5MHz＝160MHzとなる。

② 検討対象周波数帯の代表的なシステムと代表的パラメータ

システム	最大出力	帯域幅
放送業務用	50W	5．8kHz、16kHz、100kHz
広帯域テレメータ	1W	400kHz
ラジオマイク（補聴援助用）	10mW	10kHz，7kHz

③ 共用検討の基本的な考え方

③－1　与干渉

「隣接周波数帯における既存の電波利用に対しては、現在、これが高出力の地上アナログテレビジョン放送と共存していること」(情報通信審議会情報通信技術分科会電波有効利用方策委員会報告(平成19年6 月27 日))から、公共ブロードバンドシステムの与干渉の影響は極めて小さいと考えられる。具体的には、アナログテレビ4chとの比較により、下隣接周波数帯を使用する無線システムと共用可能であることを示す方向で検討を進める予定。

③－2　被干渉

OFDM方式が想定される公共ブロードバンドシステムにおいては狭帯域システムからの被干渉は、比較的、小さく影響は限定的と想定される。